第18回 伸びよう伸ばそう青少年

少年の主張発表会

「村民の青少年健全育成に対する関心を高め、理解を深めてもらおう」と毎年行われている『少年の主張発表会』が、ことしも先月1日、公民館講堂で開催されました。

小学生4名、中学生6名は、会場に詰めかけた家族などの前で、堂々と力強く発表しました。

和納小学校
6年 佐藤愛太さん

『守ろうぼくらの岩室村を』

地球の色は何色でしょうか。きっと青色と答えるでしょう。それは、海の色、山の色だからです。

ぼくは、地域清掃をしてみて、このままでは岩室村だけでなく、地球がごみの山になってしまうと感じました。ぼくたちの一人一人ができることをまず始めてみませんか。

岩室小学校
6年 小川涼子さん

『家族って何？』

家族が、ただ一緒に住むだけの関係なら、同居人と同じです。私にとって家族とはどんな存在なのか、父との関係や家族として意識した時のことを振り返ってみました。

私が学校の話をすると、家族は笑って聞いてくれます。そんな時、この家に生まれてよかったと思います。

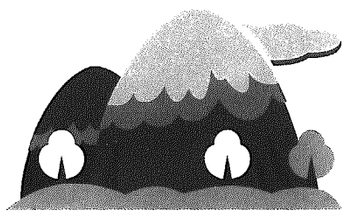
私にとって家族は、血がつながっているのだけではなく、温かく安心できる存在です。

和納小学校
6年 新川かす美さん

『自然教室で学んだこと』

私たち和納小学校の六年生は、妙高へ自然教室にいきました。

雨の降るなか行われた火打山登山や、テントでの生活、野外炊飯など、妙高の大自然のなかで過ごした三日間。そこで私は、たくさんの思い出を作り、そして多くのことを学ぶことができました。



岩室小学校
6年 鈴木　歩さん

『大切な人』

私には、尊敬している大好きな二人がいます。その二人とは、私がふだんお世話になっている身近な人で、祖母と父のことです。祖母と父はもちろん親子なのですが、とてもいいコンビで、私たち家族のために一生懸命働いてくれます。

私は、この二人のことをみなさんに知ってもらいたくて、発表することにしました。

岩室中学校
1年 青木早希さん

『高齢化社会で私ができること』

みなさんは電車やバスの中でお年寄りに席をゆずったことはありますか？今、高齢化が進む中でこの問題について考える人は少ないと思います。

そこで私は乗り物の席などをなるべくお年寄りにゆずろうと決めました。小さな人助けでも重なればお年寄りにとって住みよい社会になると私は思います。

岩室中学校
1年 田中　雅さん

『プレゼント』

良く晴れた日、浜へ兄と野球をしに行くと砂にまみれた何かがあった。それはカモメだった。釣り糸が体にからまり翼を広げることができなかった。なんでこのような事が起こるのか？海を汚さないために僕たちにできることはあるのだろうか？みなさんで心がけていきましょう。

岩室中学校
2年 堀川真佐美さん

『うちのおばあちゃん』

私は、洗いものをしている時にコップを割るおばあちゃんに腹を立てていた。しかし、左半身不自由という障害に耐えてきた、小さい頃のおばあちゃんの心の中の話を聞いて、腹を立てていた自分を反省し、健康であることを幸せに思い、勉強や部活、そして手伝いも忘れずに過ごしていきたいと思った。

岩室中学校
2年 組野祐太さん

『空にする方向で』

この作文を書いた理由は、給食をたくさん残しているのを見たからです。

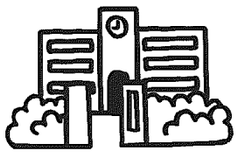
だから、給食を全部食べてほしい、それと同時に世界の食糧不足をなくしたいと思っているからです。

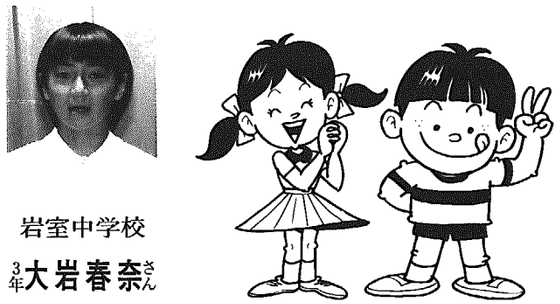
岩室中学校
3年 広沢智哉さん

『不要なもの』

学校でのイライラか、家族や弟にあたったりしていた自分に終止符を打とうと思ったので、この作文を書きました。

自分のしていた過ちを反省し、これから先、自分の心をコントロールでき、周りの人を和やかな気持ちにさせられる人間になりたいと思います。





岩室中学校
3年 大岩春奈さん

『私が私であるために』

「なんでそんなこともできないんだ、姉に勝てることはないのか。」

幼い頃から、この言葉に縛られていた私。私は自分を大岩家のミソッカスと考えていた。

しかし、中三になり、ようやく、それが自分を励ますための両親の愛情の裏返しであると気づき、比べることを恐れて走るのではなく思いきり自分の力を発揮してこれからは自分のために走ろうと思い、その気持ちを書きました。

今、青少年をとりまく環境は大きく変わって来ました。さらに二十一世紀に向けて急速な動きが予想されます。

その中で特に注目しなければならないのは、マスコミによる情報のはん濫でしょう。テレビ、雑誌の出版物等で、いつでもどこからでもいやおうなく、目、耳に入って来ます。ときにはうるさいくらいに思うことがあるでしょうが、それが今の社会です。

時には、読書、テレビなどで感動し、涙することもありましょうが、逆に今日のわたしたちの生活に良くない情報がいかに多いことか気付いてほしいのです。心の動きやすい青少年には特に心しなければなりません。

「いじめ」「非行」等は明らかにその影響を受けていると言えます。

そこで大切なことは、このはん濫する情報のうちで、何をどう受けとめ、何が必要でないかを一人ひとりが判断し、選択することです。

そのためには、日頃身近にある問題を自分のこととして受けとめ、自分自身の考えを持つことです。そうした一人ひとりの考えが、やがては輪になり住みよい社会が生まれてくると思います。

岩室村青少年育成村民会議
会長 斎藤幸夫